

## 石川県精育園環境行動計画

平成22年12月10日

### ■取組方針

石川県精育園は、要支援状態にある知的障害者に対して、日常生活上の援助、日中活動支援等の施設支援を行うことにより、その有する能力に応じた自立した日常生活を営むことが出来るようになることを目的としています。

当施設において支援活動を行っていくうえで、環境保全が重要課題の一つであることを認識し、職員一人ひとりが強い意識を持って取り組むことは大変重要なことであると考えます。また、公的機関として、民間企業や県民に対して率先し、模範となるよう行動する使命を背負っているものと認識しております。

このため、私たちは、当施設の活動が環境負荷へ及ぼす影響を少なくするため、以下の行動に取り組みます。

- ① 事業活動の中で省エネルギー化・省資源化（紙の節約）を進め、二酸化炭素の排出量を抑制します。
- ② 事務用品の購入にあたっては、積極的にグリーン製品を採用します。
- ③ 資源（用紙・生ゴミなど）のリサイクルを進め、有効利用を図ります。

この方針に基づいて、職員一人ひとりが自主的に環境保全活動に取り組むために、取組方針と取組目標及び具体的な取組内容を全職員に周知します。

平成22年12月10日

石川県精育園

園長 川口 正人

### 3 環境負荷低減の取組

当施設では、事業活動に伴う環境負荷を削減するための取組目標を掲げ、目標を達成するための具体的な取組を設定して取り組むこととしています。設定した取組目標と具体的な取組項目は、次の通りです。

<p>目標一1</p>	<p>二酸化炭素の排出量を、平成 19～21 年度三カ年平均（約 534,464kg-CO<sub>2</sub>）を基準として、平成 23 年度までに 524,930 kg-CO<sub>2</sub> 以下に削減する。</p> <p>（※）平成 23 年度には、利用者の居室冷房化（39 室）を計画中であり、設備増に伴う電気使用量が増大する見込みである。</p> <p>39 台×1.07kw×8h×92 日=30,713kw</p> <p>30,713kw×0.56=17,199kg-CO<sub>2</sub></p> <p>3 カ年平均 534,464kg-CO<sub>2</sub>×0.95 + 増見込 17,199kg-CO<sub>2</sub>=524,939 kg-CO<sub>2</sub></p>
<p>具体的な取組</p>	<p>（事務所での取組）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 冷房温度（28 度）と暖房温度（20 度）を厳守する</li> <li>② 昼休みの消灯、パソコン・コピー機の電源 OFF を徹底する</li> <li>③ 人のいないエリアの消灯を徹底する</li> <li>③ パソコン・コピー機の節電機能を活用する</li> <li>④ ボイラーの循環水の温度を適切に設定する</li> <li>⑤ 照明器具の省エネ化を進める</li> </ol> <p>（公用車使用に関する取組）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① エコドライブ講習会に参加し、運転の際意識的に実践する</li> <li>② 車両運転開始時点検を行う</li> <li>③ 会議・打ち合わせなどの計画を事前に集約し、効率的な公用車使用に努め、乗り合わせを徹底する。</li> </ol>
<p>目標一2</p>	<p>「焼却又は埋め立て廃棄物」の排出量を把握しつつ、リサイクルを徹底し漸減に努めていく</p>
<p>具体的な取組</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① シュレッダーの使用は機密書類に限定する</li> <li>② 使用済みインクカートリッジはリサイクル業者に回収してもらう</li> <li>③ 詰め替え可能な製品を優先的に購入する</li> <li>④ 封筒、ファイル、フォルダーは繰り返し使用する</li> <li>⑤ 生ゴミなどは、極力堆肥化し再利用する。</li> </ol>

目標一 3	コピー用紙の使用量を、平成 19～21 年度の三カ年平均 (314kg) を基準として平成 23 年度までに 310kg 以下に削減する。
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 作成した資料やメール等で収受した資料はパソコン画面上での確認を徹底する</li> <li>② 書類・資料の電子データ化を進め、メールでのやり取りを徹底する</li> <li>③ 両面印刷、両面コピーを徹底する</li> <li>④ 使用済み用紙の裏面を利用する</li> <li>⑤ 施設のトイレ内に、トイレトーパー節約の張り紙をする</li> <li>⑥ 会議や講座等で配布する資料作成にあたっては、ある程度参加者数を予測して、印刷は必要最低限の部数に抑制する</li> </ul>

目標一 4	水の使用量を、平成 19～21 年度を ( 25,902 m <sup>3</sup> ) を基準として平成 23 年度までに 25,643 m <sup>3</sup> 以下に削減する。
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 利用者の水使用に注意し、使用后、必ず蛇口を閉めるよう声を掛けていく</li> <li>② 入浴時、利用者に、水を出しすぎないように注意していく</li> <li>② 施設の洗面所に、水節約の張り紙をする</li> </ul>

#### 4 環境行動計画の実施体制

3 に掲げる「環境負荷低減の取組」を推進するために、担当責任者を定め、すでに当園組織として活動している環境部会が中心となり全職員と協力し、具体的な取組の実施状況を以下のとおりチェックします。

- ・「日常業務活動チェック表」に基づき、節電状況などについて環境部会担当及び夜間勤務者が毎日確認、記入を行い、月単位で責任者のチェックを受けます。
- ・年間の電力、燃料などの使用量及びグリーン化製品の購入率を集計し、増減理由や達成率などを分析し、次年度以降の行動計画にどう反映させるか組織的に検討します。
- ・環境部会担当による施設内の定期的なミーティングを行っていきます。